

石狩地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

就農前は美容室を経営していましたが、仕事をするなかで薬品によるアレルギーがひどくなり、このまま仕事を続けていけるか悩んでいました。そのような時、以前から漠然としたあこがれを抱いていた農業をやってみたくなり、店を畳んで農家でアルバイトを始めました。バイト先がたまたま有機農家だったこともあり、有機農業を勉強するようになりましたが、ある先進者の理論に非常に感銘を受け、自分が作り手になりたいと思うようになったのがきっかけです。

就農前は、石狩市内の有機農家で4年間アルバイトを行い、その後、国の事業を活用した研修を2年間行い就農しました。

つちゆきファーム（石狩市） 伊藤 絵美さん

2025年8月取材

就農年：2024年4月

経営形態：露地栽培・施設園芸

作物：すいか、ビーツ、長ねぎ

【就農して感じていること】

余計な手間をかけずに作物を育てることができれば、作物も健全に育ちます。自分で作付けした作物の成長過程を見ることに楽しさを感じていて「植物オタク」なのかもしれません。

また、アルバイト・研修でお世話になった有機農家の代表が「手を掛けるのはいくらでもできる。掛ければ掛けるほどお金・時間も掛かる。拾うのもお金、捨てるのもお金。」と常々仰っていた言葉を大切にしており、農作業をする上でどこに重きを置くか、資材や副産物をどう有効活用するかを考えながら働いています。

【就農して苦勞したこと】

石狩市で有機農業の新規就農者が初めてだったこともあり、農業委員会との調整が難航し、農地探しに苦勞しましたが、10年間耕作放棄地だった土地を賃借することが出来ました。しかし、ほぼ原野に戻った土地は荒れ果てており、重機を使って抜根作業から始めなければなりませんでした。また、資金調達も審査がなかなか通らず、疲弊していました。

また、農地に電気を引いていないので、電力で苗を温めることができません。代わりに燃油機器を使用していますが、経費削減のため籾殻や米ぬかの発酵熱も利用しています。籾殻や米ぬかを使用することで、ハウス内の湿度を保つこともできます。

【オフの過ごし方】

1週間に2回は休みをとるように心がけています。忙しい時期でも、子どもと遊ぶ時間を大切にしており、仕事と遊びのメリハリもつけています。

農作業のない冬季期間は、除雪作業のアルバイトに行ったり、アルバイト・研修でお世話になった有機農家で堆肥作りをしています。

【長ねぎのほ場】



長ねぎは苗を1本1本手植えしているそうで、中腰の体勢がかなりの重労働のようです。

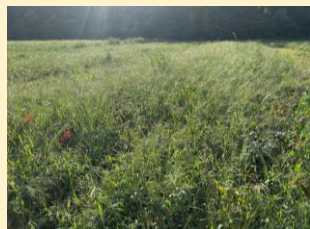
すべて手作業で播種、除草、収穫を行います。

【栽培について】

現在は賃借した1haの農地にハウス4棟を建てすいかを栽培しているほか、露地でビーツと長ねぎを栽培しています。

ハウスの資材は全て中古品を活用しており、一部はYouTubeの動画を参考にしながら自力で建てました。

【ビーツのほ場】



左側の写真は順調に生育し、収穫を待つほ場。真ん中の写真は生育が悪く、管理に手が回らなくなってしまったほ場です。どうして生育不良になってしまったかはわからないとのこと、来年に向けての課題と仰っていました。

ビーツは、粉末状にしてパウダーとして使用されることが多いそうです。

【里芋の試験栽培】



ほ場の隅に植えられている里芋がありました。温暖化の影響により、かつては北海道での栽培が不向きだったさつまいもや落花生等の栽培に取り組む人が増えています。その中で、伊藤さんはまだ取り組んでいる人が少ない里芋を試験的に栽培しているそうです。

【今後の展望】

有機野菜の需要は増えていると感じますが、まだまだ世の中には浸透していないという印象があります。今後は、石狩市の学校給食での使用を働きかけ、地元の有機農産物を子どもたちに知ってもらいたいと思っています。

また石狩市において、有機農業での新規就農先駆者としてしっかりと結果を出し、近い将来には石狩市全体で有機農業を推進していきたいです。

【今後、就農する方々に伝えたいこと】

大事なものは、自分を取り巻く環境や関わる全ての人に謙虚な心で接し、感謝の心を忘れないことだと思います。感謝の心があれば、困った時にはいろいろな人が助けてくれるはずです。

他人からの評価を求め、自尊心やおごりが芽生えてしまったばかりに失敗した例も間近で見ました。

【堆肥】



おがくず等の土中醗酵に取り組んでおり、堆肥中の微生物が働きやすい温度管理や土づくりを何年もかけて続けていきたいと仰っていました。